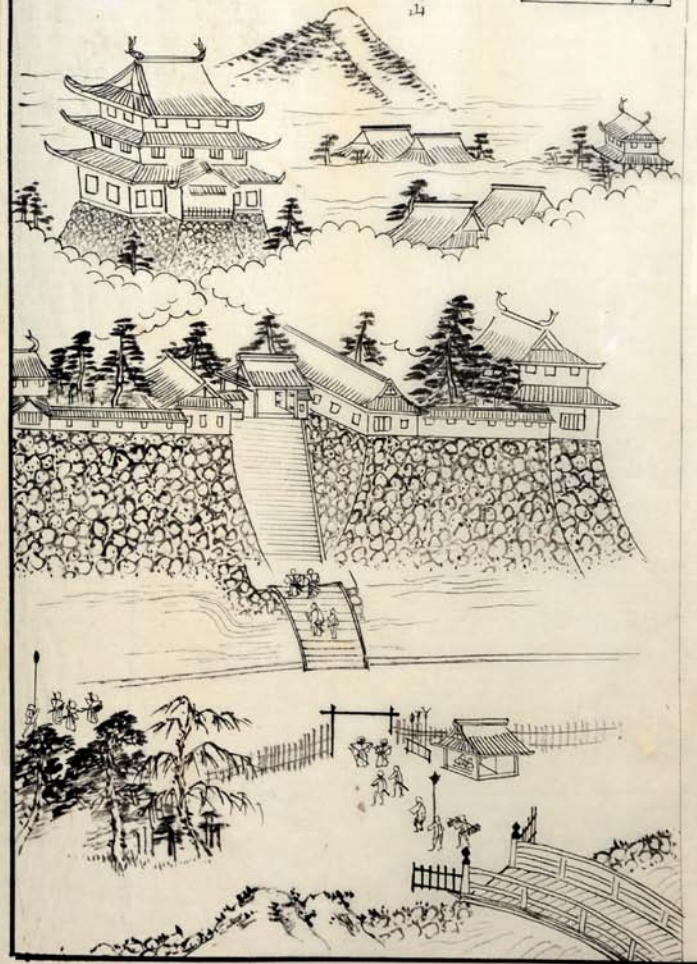


高山城

錦山



(第 32 図)

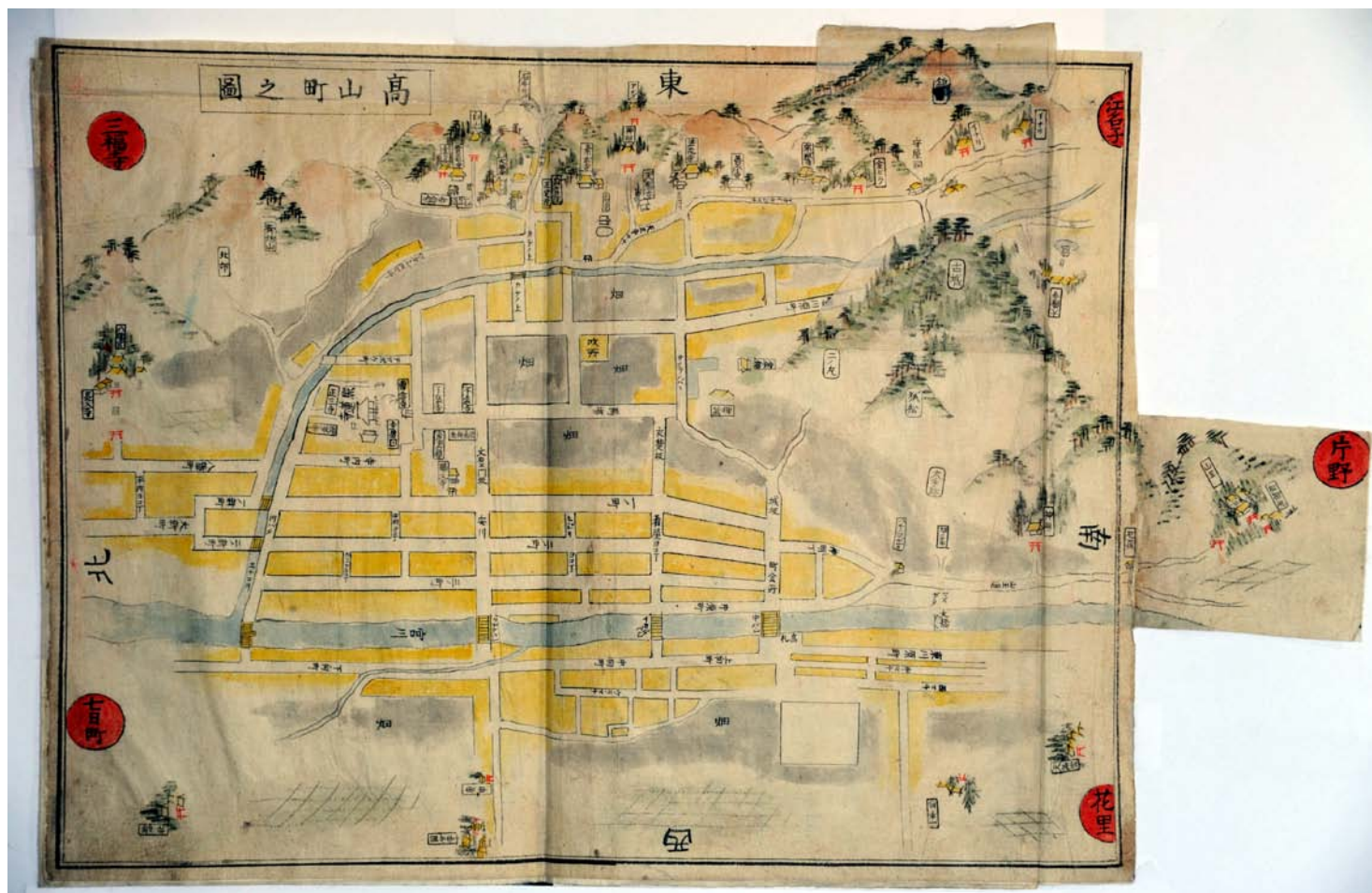
花縣金城長年主  
直揮撥控似覺搖  
君命山巍然氏作元  
外十枝柔愧高山

花縣金城

金長親直題



永正年中、山内紀元集きて侍る  
天神山の左殿、天正十三年八月  
金長活字、父然前国大抱城より  
来て、花縣國平定の後、十六年  
兄定より山と協略し、一二三の九  
ちて平内よりく、城を築き  
撫く、いさゝも、也、殿、いさゝも、ね多  
建、並て、花長、以年、小、あて  
金、成、能、て、金、長、活、字、官、以、在、城、と  
り、本、子、金、長、出、世、可、也  
其、右、門、増、修、不、新、城、と、き、つ、て  
一、万、石、を、多、修、て、侍、り、め、り、け  
し、と、い、ふ



(第 30 図)

## (29) 高山城之図、高山町之図 (第 32 図、第 30 図)

年代 第 32 図は金森時代、第 30 図は幕府直轄地時代後期

寸法 第 32 図 8.5×11 (『斐太後風土記』掲載寸法)

第 30 図 24.6×37.7 (『斐太後風土記』の原稿絵図寸法)

所蔵 第 32 図『斐太後風土記』所載

第 30 図『斐太後風土記』の原稿類は富田家より寄付されて高山教育委員会が所蔵

第 32 図は『斐太後風土記』に挿入されている高山城の姿図である。本丸、二ノ丸、三ノ丸の姿をそれぞれ切り取り、寄せ集めて描かれ、実際の形とはかけはなれている。本丸は 3 層になっていて、金森氏が作製した高山城郭図 (第 35 図) の部分を引用してはめ込んだ図である。

また、『斐太後風土記・上』(註 13) の 71 頁に「高山町之図」が挿入されている。字が細かく読みづらいので、『斐太後風土記』の原本 (第 30 図) の図をここに掲載した。『斐太後風土記』の本文内容では、「高山一之町村」の項に村の説明が掲載され、支村として島川原町や宗猷寺町などが記されている。

この「高山町之図」は高山城が取りこわされている絵図で、城は「古城、二之丸」、武家屋敷跡 (空町地区) は畑になっている。「肴屋ヨコ丁」「ヒジリヨコ丁」「中村ヨコ丁」「カミヤヨコ丁」「平内ヨコ丁」の横丁の名称が記されている。

(註 13) 蘆田伊人編集兼発行 『大日本地誌大系第七冊 斐太後風土記上』

大日本地誌大系刊行会 大正 4 年 11 月 12 日発行

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。